

令和4(2022)年 No.1246

広報 **いせはら**

Public Relations Paper

主な記事

- 2 6月1日～7日は「水道週間」
- 4 5 事例で捉える、自然環境との共生
- 8 「ゼロカーボンシティいせはら」に向けて

6月1日

ISEHARA



工事部
おがわ かよ
小川 佳代さん

仕事との出会いは、マイホームの設計から

一人一人が輝き続けられる社会に

6月23日～29日は男女共同参画週間。市では、人権を尊重し合いながら、性別にかかわらず職場や学校、地域、家庭で個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」の実現を目指しています。

上粕屋にある株式会社丹野設備工業所は令和2(2020)年11月、市内に本社を置く企業として初めて「えるぼし認定」*3段階目(最高位)を取得するなど女性が能力を発揮しやすい職場環境の整備に努めています。

今回はそこで働く従業員の姿から男女のパートナーシップの重要性を考えます。

*女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づき、一定基準を満たし、女性の活躍促進に関する状況などが優良な企業を認定する厚生労働省の制度

個人権・広聴相談課 電話 94-4716



総務部
ひろいし はるか
廣石 遥さん

磨き上げたコミュニケーション力を生かして

性別役割意識にとらわれない、個性と多様性を生かせる職場環境づくり

当社は昭和50(1975)年10月に伊勢原の地に創業。公共上下水道や空調など、暮らしのインフラを下支えしています。

社内には「ものづくりがしたい」「人々の生活を支えたい」という強い志をもつ57人が働いており、一人一人が大切な存在です。

個人で違いはあるものの、得意な分野を磨きながら能力を発揮できる環境を維持することが私の役目です。

人口減少社会、少子高齢化を迎えているわが国においては、活力を維持していくため、「男性だから」「女性だから」という考えではなく、「自分らしくできることがある」と考える必要があると思います。



株式会社丹野設備工業所
たんの のりひと
丹野 徳人代表取締役社長

短期大学でプログラミングやウェブサイトの作成といった情報メディアについて学んでいた廣石さん。一時期はインターネット関連企業に進むことも考えました。しかし、生徒数の少ない小・中学校で過ごしてきた経験から、多くの人と関わりたいという気持ちが強くなり、持ち前の対人関係能力を生かせる仕事をしたいと思い、事務職として就職しました。

7年目となった現在は人事・労務を担当しており、技術職のサポートのほか、自身の入職のきっかけにもなったインターンシップや、企業の採用説明会など求人活動にも積極的に励んでいます。